

2010 年 6 月 7 日発行

1.若い世代の子宮頸がん罹患・死亡者が増えていることが問題です

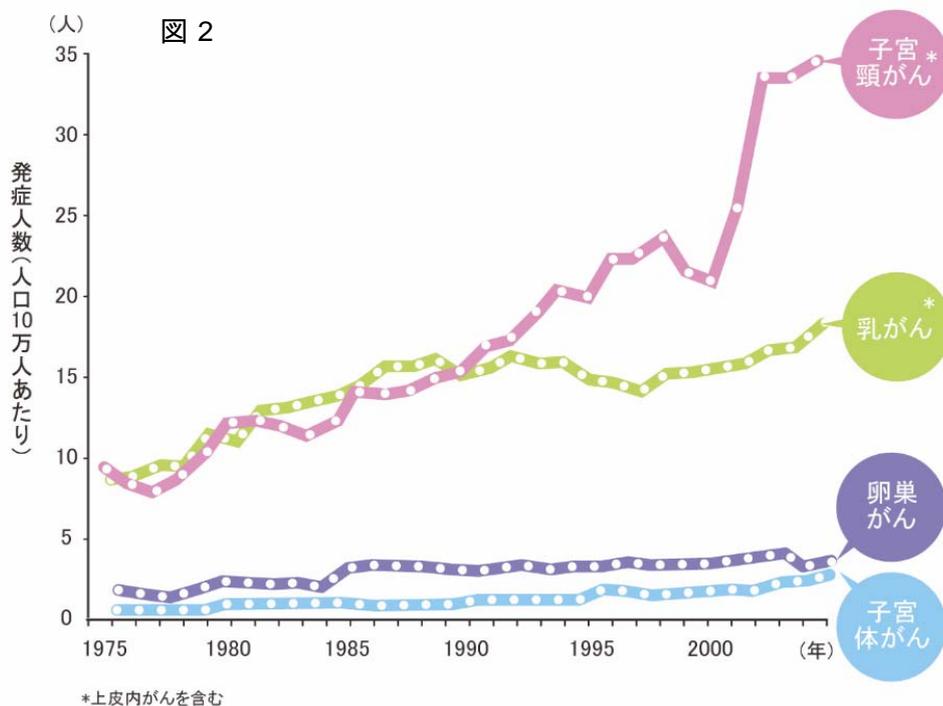
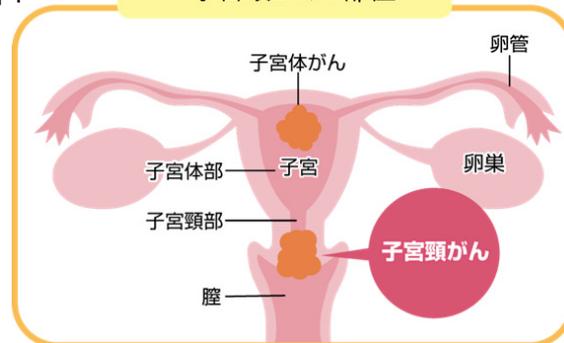
子宮頸がんは子宮の入り口である子宮頸部にできるがんです。子宮体部に生じるがんは子宮体がんと呼び、同じ子宮がんでも全く別のものです。(図 1)

日本では若い世代を中心に罹患率、死亡率ともに増えており、年間約 15000 人の方が罹患して約 2500 人が死亡されています。

20-30 歳代の婦人では最も多いがんとなっており、このことが妊娠を前に子宮の手術が必要となるといった悲劇につながっています。

子宮頸がんの原因は性行為で感染する HPV です。性経験の低年齢化がこのような若い世代における子宮頸がんの増加につながっていると考えられます。(図 2)

図 1 子宮頸がんの部位



2. ヒトパピローマウイルス(HPV)が原因です

1980 年代からヒトパピローマウイルス (HPV) が子宮頸がんの原因であることが確認されました。約 100 種類ある HPV の中で発ガン性を有するタイプはハイリスク型と呼ばれ、約 15 種類が確認されています。

ハイリスク型 HPV に持続感染すると、数年から数十年をかけてまれに（約 0.15%）子宮頸がんをおこします。ただし、HPV はありふれたウイルスであり、性経験のある婦人は約 80% が感染した経験をもつと言われ、一時的な感染は特別なことではありません。2009 年末から認可された HPV ワクチンはハイリスク型の中でも HPV16 型と 18 型の感染を予防するワクチンです

3. 子宮頸がん検診による早期発見と予防 図 3

初期の子宮頸がんや前がん状態では不正性器出血などの症状はありません。子宮頸部は腔の奥に位置し、がんの好発部位を直接擦過して細胞診を行うことにより初期の子宮頸がんや前がん状態を早期発見することが可能です。（図 3）

しかし、日本では子宮頸がん検診の受診率は 70 - 80% 以上である欧米諸国と比較して約 25% と低いです。

とくに 20 歳代では 5% 前後と極端に低くなっています。このように若い世代の受診率が低いことが子宮頸がんの罹患者や死亡者の増加につながっていると考えられます。



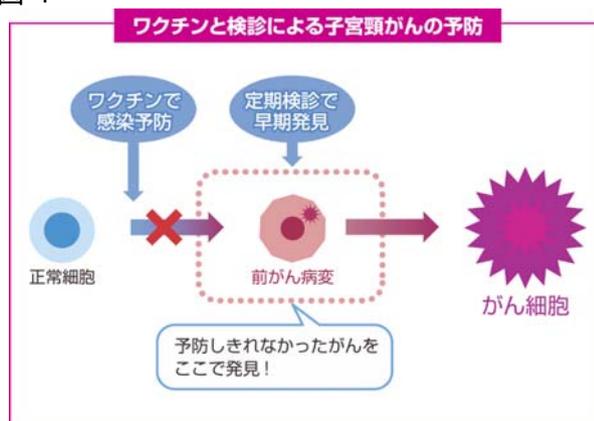
4. HPV ワクチンが接種できるようになりました

2009 年末から HPV16 型、18 型の感染を予防するワクチンが認可されました。このワクチンは 7 年前に開発され、欧米では 3 年前から公費による接種が導入されています。（図 4）その特色として、

1. 初回、1 か月後、6 か月後に 3 回の接種が必要です
2. HPV16 型、18 型による子宮頸がん（全体の約 60%）を予防できる可能性があります。
3. 抗体の持続は 20 年間と予想されています。

今後はワクチンと子宮頸がん検診を組み合わせた子宮頸がん対策が必要です。HPV ワクチン接種や子宮頸がん検診をご希望の方は当院の産婦人科外来へお問い合わせください。

図 4



次回 第2回 子宮頸がんの原因ウイルスとワクチン 産婦人科 石田大助 先生

この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。

[えきさいかい](#)

